

道路施設維持管理システム構築業務

特 記 仕 様 書

特記仕様書

業 務 名：令和6年度 国補道路メンテナンス（橋梁）事業
道路施設維持管理システム構築業務
業務箇所：県内一円

第1条 業務の履行

本業務の履行にあたっては、本特記仕様書によるものとする。

なお本特記仕様書のほか、長野県建設部による「設計・測量・調査業務委託関係集」の関係規程に従い実施しなければならない。また、特記仕様書に明記なき不明な事項について、管理技術者は監督員と協議する。

第2条 業務目的

本業務は、長野県が管理する道路施設の長寿命化に向け、維持管理に必要となる事項を整理し、長野県橋梁修繕管理システム^{*1}のクラウドサービス化や他システム含めたクラウドサービスによる道路施設維持管理システム（データベース作成を含む）を構築することで、法定点検結果の入力を含む維持管理業務の効率化・迅速化や、国の全国道路施設点検データベース^{*2}へ一括登録できる機能等を構築することで、職員の省力化を図る事を目的とする。

※1 長野県橋梁修繕管理システムについて、下記URLを参照

https://www.pref.nagano.lg.jp/michikanri/documents/02_systemmanual_r01.pdf

第3条 契約期間

契約日の翌日から令和8年3月27日までとする。

第4条 業務概要

1 本業務の対象とする道路施設は以下のとおりとする。

橋梁、トンネル、シェッド、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識、舗装

ただし、将来的に他道路施設（特定道路土工構造物等）を拡張できる仕様とすること。

2 業務の概要は次の内容とする。

道路施設維持管理システム構築等

- ① 計画準備
- ② 資料収集整理
- ③ 基本設計
- ④ 詳細設計
- ⑤ システム構築
- ⑥ データ整備
- ⑦ 操作マニュアル作成等
- ⑧ 報告書作成
- ⑨ 打合せ協議

第5条 業務内容

道路施設維持管理システム構築等

- (1) 計画準備

業務の目的、主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務の実施方針、実施体制及び工程等の検討・整理を行い、業務計画書を作成し、業務着手時の打合せ時に監督員に提出するものとする。

(2) 資料収集整理

- ①各施設の点検要領（国・県）等を参照し、道路施設維持管理システムに反映すべき事項を整理する。
- ②既往の台帳や法定点検結果の資料について収集整理する。施設数やデータ数については表-1～2を基本とし、変更が生じた場合は変更設計の対象とする。
- ③補修履歴、補修工事に伴う調査・設計履歴の登録について、電子納品保管管理システム^{※3}、長野県橋梁修繕管理システム^{※1}または各施設における長寿命化修繕計画策定業務より情報を取得すること。

表-1 台帳一覧

項目名称	数量	備考
橋梁台帳 (DB ^{※2} やPDF形式)	3,851橋	DB等から諸元を移行し、登録する。
トンネル台帳 (DB ^{※2} やExcel形式)	211箇所	同上
シェット・大型カルバート台帳 (DB ^{※2} やExcel形式)	129箇所	同上
横断歩道橋台帳 (DB ^{※2} 形式)	129橋	同上
門型標識台帳 (DB ^{※2} 形式)	46箇所	同上

表-2 点検調書一覧

項目名称	数量	備考
橋梁定期点検結果（定期点検2回） (※1)	3,851橋	既存システムから移行し、登録する。
トンネル定期点検結果（定期点検2回） (Excel形式)	211箇所	県点検調書Excelを移行し、登録する。
シェット・大型カルバート定期点検結果（定期点検2回） (Excel形式)	129箇所	同上
横断歩道橋定期点検結果（定期点検2回） (Excel形式)	129橋	77条調査点検調書Excelを移行し、登録する。
門型標識定期点検結果（定期点検2回） (Excel形式)	46箇所	同上

(3) 基本設計

- ①各道路施設の維持管理に係るデータを一元管理するための機能やデータベースの在り方を検討すること。また、設計にあたっては将来の機能追加・拡張が可能な

システムとする。

- ②データベース項目必須要件は各施設の点検要領（国・県）及び台帳（別紙1）の通りとし、データベースの項目及び項目数の決定については、受発注者間協議によるものとする。ただし、各施設における点検要領（県）の項目は必須とする。
- ③道路施設維持管理マスターDBのスキーマ設計を行うこと。DBのスキーマ設計にあたっては、全国道路施設点検データベース^{※2}へのデータ連携内容などを意識し、設計を行うこと。
- ④道路施設維持管理システムのベースとするクラウドサービスに関する要件を検討する。クラウドサービスの要件設定においては、施設毎のデータ管理ができる形態とすること。また、保存可能容量が上限に達した際に、随時容量を拡張できる仕様とすること。

(4) 詳細設計

(3)の結果および以下の観点を踏まえ、道路施設維持管理システムの詳細設計を行う。

- ①本仕様書で示している条件及び資料を基にデータを一元管理するためのシステムとすること。
- ②道路施設維持管理システムに求められる機能要件、非機能要件を整理し、要件定義書を作成すること。作成に当たっては以下の点に留意すること。
 - ア 道路施設維持管理システムの機能要件は（別紙2）とし、非機能要件は（別紙3）を基本とし、決定については、受発注者間協議によるものとする。
 - イ 道路施設維持管理システムのベースとするクラウドサービスに関する要件を明記すること。
- ③点検及び補修のデータを簡易に登録できるよう、取込ツールを作成するとともに、それらの操作運用ルールを設計すること。
- ④道路施設維持管理システムの運用により、今後の道路管理の効率化に効果をもたらすことを目指すこと。
- ⑤長野県情報セキュリティポリシーを遵守し、情報セキュリティ対策及び作業管理を適切に行い、情報漏洩事故等が起こらないよう十分配慮すること。
長野県情報セキュリティポリシー（参考URL：
<https://www.pref.nagano.lg.jp/dx-infra/kensei/soshiki/soshiki/kencho/dx-infra/index.html>
- ⑥国システムや県システムとの連携を検討すること
国システム
・※2 全国道路施設点検データベース
(参考URL: <https://road-structures-db.mlit.go.jp/>)
県システム
・職員専用GISシステム（ArcGIS）：長野県インフラデータプラットフォーム
(参考URL: <https://nagano-infrastructure-data-platform-1-nagano-idp.hub.arcgis.com/>)
・※3 長野県電子納品保管管理システム（参考URL: https://www.pref.nagano.lg.jp/gi_jukan/happyou/240425dennosys.html）

(5) システム構築

(4)の結果を踏まえ、橋梁、トンネル、横断歩道橋、シェッド、大型カルバート、門型標識、舗装の各システム構築を行う。操作性等（データベース含む）も含めたシステムの評価を行うものとする。

(6) データ整備

(2)資料収集整理で示した道路施設の情報について、(5)で構築したシステムのデータベースへデータ登録を行うこととする。（過年度点検結果等について、長野県橋梁修繕管理システムや全国道路施設点検データベースを活用し、登録することとする。）

舗装のみ別業務において、整備することを想定しています。

(7) 操作マニュアル作成等

①導入するシステムのマニュアル及び運用ルールを作成することとする。マニュアルは、台帳、点検記録、修繕履歴等項目毎に作成することとし、システムログイン後に参照及びダウンロードできる形式とすること。

②システム構築後の運用管理を適切に行うため、以下に示す項目において、保守やシステム拡張に関する計画を取りまとめること。

- ・データのバックアップやシステム保守、障害発生時の対応、ヘルプデスクに関する検討
- ・その他の道路施設（道路特定土工構造物等）を追加する際の付加機能についての検討

(8) 報告書作成

本業務の作成した資料、利用した資料の整理とりまとめを行い、業務内容について報告書を作成すること。

(9) 打合せ協議

本業務における打合せは、業務着手時、中間打合せ5回、成果品納入時の計7回を行うものとし、新たな業務の追加が無い限り変更はしない。また、各作業段階での確認、随時打合せや必要に応じシステム関係部署との協議等はこれらに含まれるものとし、変更対象としない。

第6条 成果品の提出

本業務の成果品は以下のとおりとし、業務履行期間終了までに提出すること。

- ・システム利用マニュアル
- ・システム運用マニュアル
- ・システム設計書
- ・システムテスト仕様書
- ・システムプログラム報告書
- ・道路施設維持管理システム
- ・その他、監督員が必要と認めたもの

第7条 資料の貸与

受注者は、本業務に必要な資料のうち、発注者が所有するものについて所定の手続きにより貸与を求めることができる。なお、貸与を受けた資料については、業務に関する目的以外に複製、他に譲渡、転用してはならない。特に電子データについて、その物理的な扱いに注意するとともに、業務終了後はデータを返却し複製データは削除しなければならない。

第8条 秘密の保持

受注者は、本業務の履行上知り得た事項を、第三者に漏洩してはならない。

第9条 業務完了確認

受注者は社内での十分なテストを行ったうえで、発注者による稼働前検査を受けること。受注者は検査に先立ち、システムに備えられている機能リストを発注者に提出し、発注者はそのリストに基づき検査を行う。

第10条 成果品の検査および手直し

受注者は、業務完了時に成果品および必要な資料を業務完了報告書とともに提出し、発注者の検査を受けた結果、不備な点は指示に従い、ただちに訂正しなければならない。

成果品の受渡し後においても、明らかに受注者の責に帰すべき理由による成果品の不良個所が発見された場合は、受注者は速やかに訂正し、補足その他の措置を行わなければならない。

第11条 道路施設維持管理システムの帰属

本業務によって作成されたシステムの著作権は発注者に帰属し、受注者は発注者の許可なく成果品を第三者に複写、公表、貸与および使用してはならない。

第12条 参考文献等の明記

成果品に文献資料を引用する際は、著作権侵害等の問題を起こさないよう、しかるべき処理をしたうえで、その文献、資料等の名称を明記しなければならない。

第13条 その他

- (1) 工期についてはこれを厳守するものとし、受注者の都合による変更は認めない。
- (2) 発注者と連絡を密にして作業に支障がないよう、円滑な執行に努めること。
- (3) 打合せ資料は要点、問題点等を簡潔にまとめた表紙を資料に添付することとし、打合せごとに日付等を記したインデックスを付してまとめて提出することとする。
- (4) 業務の実施に当たり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議の上決定するものとする。
- (5) 利用者への周知と誰もが使いやすいシステムとするため、以下の業務を行うこと。なお、実施方法や回数、時期については発注者と協議すること。
 - ・県職員向けのシステム説明会
 - ・受注者向けのシステム説明会
 - ・業務途中において、試験版での試運用を行い、利用者への意見聴取を行う。追加機能がある場合は、機能の検討を行うこととする。
- (6) システムの保守点検業務を別途、継続して発注する予定である。（保守点検業務の契約方式、期間は未定）
- (7) 本業務に伴うクラウドサービスの利用期間は7か月（令和7年9月1日～令和8年3月31日）を想定している。業務完了後においても、クラウドサービスは令和8年3月31日まで利用できること。







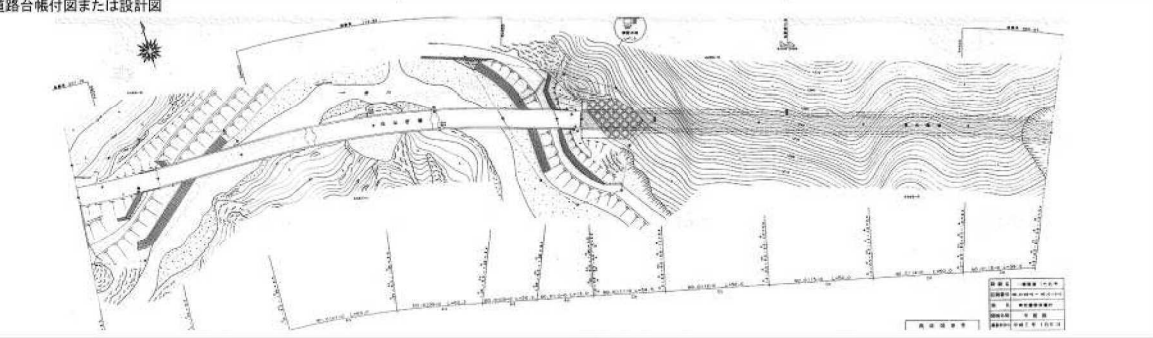
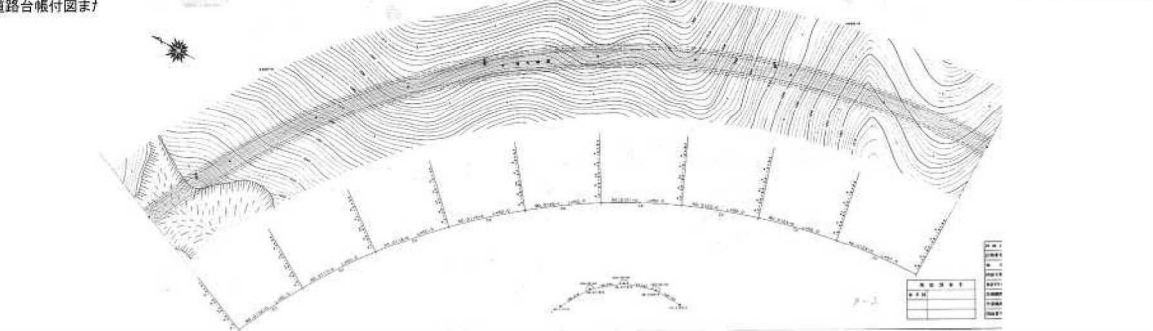
橋梁台帳

橋梁名	構造形式	上部構造		下部構造		橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)
		第一径間	第二径間	橋台 (A1)	橋台 (A2)				
橋名	構造形式	第一径間	第二径間	橋台 (A1)	橋台 (A2)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)
位置	支間数	支間数	支間数	橋台 (A1)	橋台 (A2)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)	橋脚 (P-P)
橋長	架設工数	主桁材	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
幅員	主桁材	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
橋梁形式	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
橋面積	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
橋格	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
設計荷重	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
適用示方書	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
設計震度	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
動的解析	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
荷重	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
添加物重量	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
平面線形	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
縦断線形	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
計画交通量	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
交差物件	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
標高	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
規定限界	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
河川計画	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
現橋処理	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
着工年月	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
竣工年月	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
マイクログラム	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋	鋼筋
事業費 (千円)	全体	上部工費	下部工費	基礎工	その他	延床	橋脚	橋台	橋脚
	上部工費	下部工費	基礎工	その他	延床	橋脚	橋台	橋脚	橋脚
	下部工費	基礎工	その他	延床	橋脚	橋台	橋脚	橋脚	橋脚
	基礎工	その他	延床	橋脚	橋台	橋脚	橋脚	橋脚	橋脚
荷重制限	KN (t)								

様式-1

橋梁台帳	県コード	国土交通省コード
	橋梁名	
様式-3	図 面	
断面図		
平面図・縦横断面図		
その他		
写 真		

トンネル台帳		〔様式 1ー1〕			トンネル諸元				(SAMPLE)		調製年月日		2011/12/11			
フリガナ	マルマル				路線名		(国)158号		所在地		松本市安曇		管轄		松本建設事務所	
名称	〇〇トンネル				路線番号		158		自		松本市安曇		至		松本市安曇	
施設番号	A1****				経度		36° 39' 8"		経度		138° 10' 32"					
起点	緯度	36° 39' 5"			経度		138° 10' 52"		終点		経度					
現道・旧道区分	現道	坑門材料			コンクリート		照明施設有無		有		トンネル		設備等級		C	
供用区分	上下線供用	坑門			面壁型		基本照明種類		低圧ナトリウム灯		施設の内訳		有無		設置更新年次	
一般有料区分	一般(無料)	覆工材料			面壁型		灯具数		32灯		通報装置		○		S59	
道路等級	第3種 第3級	覆工材料			コンクリート		出入口照明種類		高圧ナトリウム灯		火災検知器		○		S59	
トンネル延長	1088.0m	アーチ			60cm		灯具数		28灯		非常警報装置		○		S59	
管理延長	1088.0m	側壁			60cm		照明配列		肩部両側配列		消火設備		○		S59	
道路幅	9.00m	インバート			50cm		設置・更新年月		H8.4		消火栓		○		S59	
車道幅	6.00m	アーチ			4.850m		換気施設有無		有		誘導表示板		○		S59	
左路肩	0.50m	側壁			9.700m		方式		ジェットファン		排煙設備					
右路肩	0.50m	インバート			13.500m		型式		φ1000		避難誘導設備					
左歩道(廊)	1.00m	種別			コンクリート		台数		6		避難通路					
右歩道(廊)	1.00m	舗装厚			25cm		設置・更新年月		H8.4		避難連絡通路					
有効高	4.7m	中央排水溝			有り		数量				給水栓					
縦断勾配	4.1%	左側溝			現場打ち		管理者				無線通信補助設備					
内空断面積	50.0㎡	右側溝			現場打ち		数量				ラジオ再放送設備		○		H17	
設計速度	40 km/h	内装版			無し		管理者				水噴霧器設備					
交通量	2,609台/日	吸音版			無し		数量				監視装置					
大型車混入率	32.1%	非常駐車帯			無し		管理者				防火貯水槽					
建設年次	S58	方向転換所			無し		数量				非常用電源設備					
供用年次	S58	本体工事発注者			長野県		管理者									
施工方法	矢板工法	本体工事			〇〇JV		特記		トンネルが連続するためラジ再も設置							
		起点側工区			同上											
		終点側工区														

トンネル台帳	〔様式 1-2〕	状況写真・平面図	SAMPLE				調査年月日	2011/12/11
フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル	路線名	(国)158号	所在地	自 松本市安曇	至 松本市安曇	管轄	松本建設事務所
施設番号	A1*****	路線番号	158					
状況写真	・起点側坑口		・終点側坑口		・坑内状況			
								
								
平面図	道路台帳付図または設計図							
	1							
2								

トンネル台帳	[様式-1-3] 標準断面図、地質縦断面図、施工実績等				調製年月日	2011/12/11																																																																													
フリガナ	マルマル	路線名	(国)158号	所在地	管轄	松本建設事務所																																																																													
名称	〇〇トンネル	路線番号	158	自	松本市安曇																																																																														
施設番号	A1****			至	松本市安曇																																																																														
<p>標準断面図・地質縦断面図・施工実績も添付する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>明り巻断面</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>地質縦断面図</p> </div> </div>																																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">工法</th> <th colspan="5">上部半断面先進掘削工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地質・弾性波</td> <td>掘削分類</td> <td>風化した礫岩</td> <td>礫岩</td> <td>礫岩</td> <td>礫岩</td> <td>土砂</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>D</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td></td> <td>施工区間</td> <td>30.0m</td> <td>30.0m</td> <td>163.0m</td> <td>30.0m</td> <td>30.0m</td> </tr> <tr> <td></td> <td>支保工規格</td> <td>H200</td> <td>H200</td> <td>H150</td> <td>H200</td> <td>H200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>支保工間隔</td> <td>90cm</td> <td>120cm</td> <td>120cm</td> <td>120cm</td> <td>90cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ロックボルト</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>吹付又は矢板</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">掛 矢 板</td> </tr> <tr> <td></td> <td>覆工厚</td> <td>60cm</td> <td>60cm</td> <td>60cm</td> <td>60cm</td> <td>60cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>インバート区間</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">有</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							工法		上部半断面先進掘削工法					地質・弾性波	掘削分類	風化した礫岩	礫岩	礫岩	礫岩	土砂			D	C	B	C	D		施工区間	30.0m	30.0m	163.0m	30.0m	30.0m		支保工規格	H200	H200	H150	H200	H200		支保工間隔	90cm	120cm	120cm	120cm	90cm		ロックボルト	-						吹付又は矢板	掛 矢 板						覆工厚	60cm	60cm	60cm	60cm	60cm		インバート区間	有						その他					
工法		上部半断面先進掘削工法																																																																																	
地質・弾性波	掘削分類	風化した礫岩	礫岩	礫岩	礫岩	土砂																																																																													
		D	C	B	C	D																																																																													
	施工区間	30.0m	30.0m	163.0m	30.0m	30.0m																																																																													
	支保工規格	H200	H200	H150	H200	H200																																																																													
	支保工間隔	90cm	120cm	120cm	120cm	90cm																																																																													
	ロックボルト	-																																																																																	
	吹付又は矢板	掛 矢 板																																																																																	
	覆工厚	60cm	60cm	60cm	60cm	60cm																																																																													
	インバート区間	有																																																																																	
	その他																																																																																		
<p>施工実績などコメント</p>																																																																																			



トンネル台帳		[様式 1-4]										トンネル構造・設備位置情報等				SAMPLE		調製年月日	
フリガナ 名称		マルマル 〇〇トンネル		路線名		(国)158号		所在地		自松本市安曇		管轄		松本建設事務所		トンネル延長			
施設番号		A1*****		路線番号		158				至松本市安曇		ハシノ数		24		管理延長			
トンネル No.	スパン (m)	起点坑口からの追加距離		トンネル構造		照明設備		非常用設備						換気設備		備考			
		起点側端 (m)	終点側端 (m)	特記事項	基本	入出	特記事項	押卸	電話	消火器	消火栓	情報	誘導	誘電	特記事項		JF	VL	風速
坑外																			
1	0.7	0	0.7																
2	6	0.7	6.7																
3	9	6.7	15.7																
4	9	15.7	24.7																
5	9	24.7	33.7																
6	9	33.7	42.7																
7	9	42.7	51.7																
8	6	51.7	57.7																
9	6	57.7	63.7																
10	6	63.7	69.7																
11	9	69.7	78.7																
12	9	78.7	87.7																
13	9	87.7	96.7																
14	9	96.7	105.7																
15	9	105.7	114.7																
16	9	114.7	123.7																
17	9	123.7	132.7																
18	9	132.7	141.7																
19	9	141.7	150.7																
20	9	150.7	159.7																
21	9	159.7	168.7																
22	9	168.7	177.7																
23	9	177.7	186.7																
24	0.7	186.7	187.4																

※照明「基本」：基本照明、「入出」：入口照明※非常用設備 押和：押しボタン式通報装置、電話：非常電話、消器：消火器、消栓：消火栓、情報：情報板、誘導：誘導表示板、誘電：非常電話誘導板、※換気設備 JF：ジェットファン、VL：扇形誘導車測定器、00：00計、風：風向風速計

トンネル台帳		[様式1-5]				トンネル維持管理履歴表			SAMPLE		調製年月日		2010/3/11	
フリガナ	マルマル	路線名	(国)158号	自	松本市安曇	管轄	松本建設事務所	トンネル延長	1088.0m					
施設番号	A1*****	路線番号	158	至	松本市安曇	スパン数	22	管理延長	1088.0m					
実施年月 (工期)	対象	区分	業務名	内容	委託費 千円	施工者		参照資料 番号等						
2004.3	本体工事	修繕工事	平成16年 災害防除工事その2	裏込注入工、炭素繊維補強工他	35,000	●(株)△△支店 000-0000-0000								
2006.8	付帯施設	修繕工事	平成17年 維持修繕工事	照明設備交換取り付け工一式	12,000	●(株)××営業所 000-0000-0000								
2007.5	本体工事	修繕工事	維持修繕工事	内装版交換		●(株) 000-0000-0000								
2008.8	本体工事	調査設計	変状調査・対策工設計委託	変状調査・対策工設計委託	10,000	●(株)△△支店 000-0000-0000								
2009.2	付帯施設	点検	平成20年度維持修繕工事	照明灯具交換、VI計整備点検	850	●(株)××営業所 000-0000-0000								
2010.8	本体工事	点検	平成22年度トンネル初回点検業務	初回点検	8,000	●(株)××営業所 000-0000-0000		***						
2010.8	付帯施設	点検	平成22年度 照明設備他詳細点検業務	照明設備、非常用設備詳細点検	850	●(株)××営業所 000-0000-0000		***						

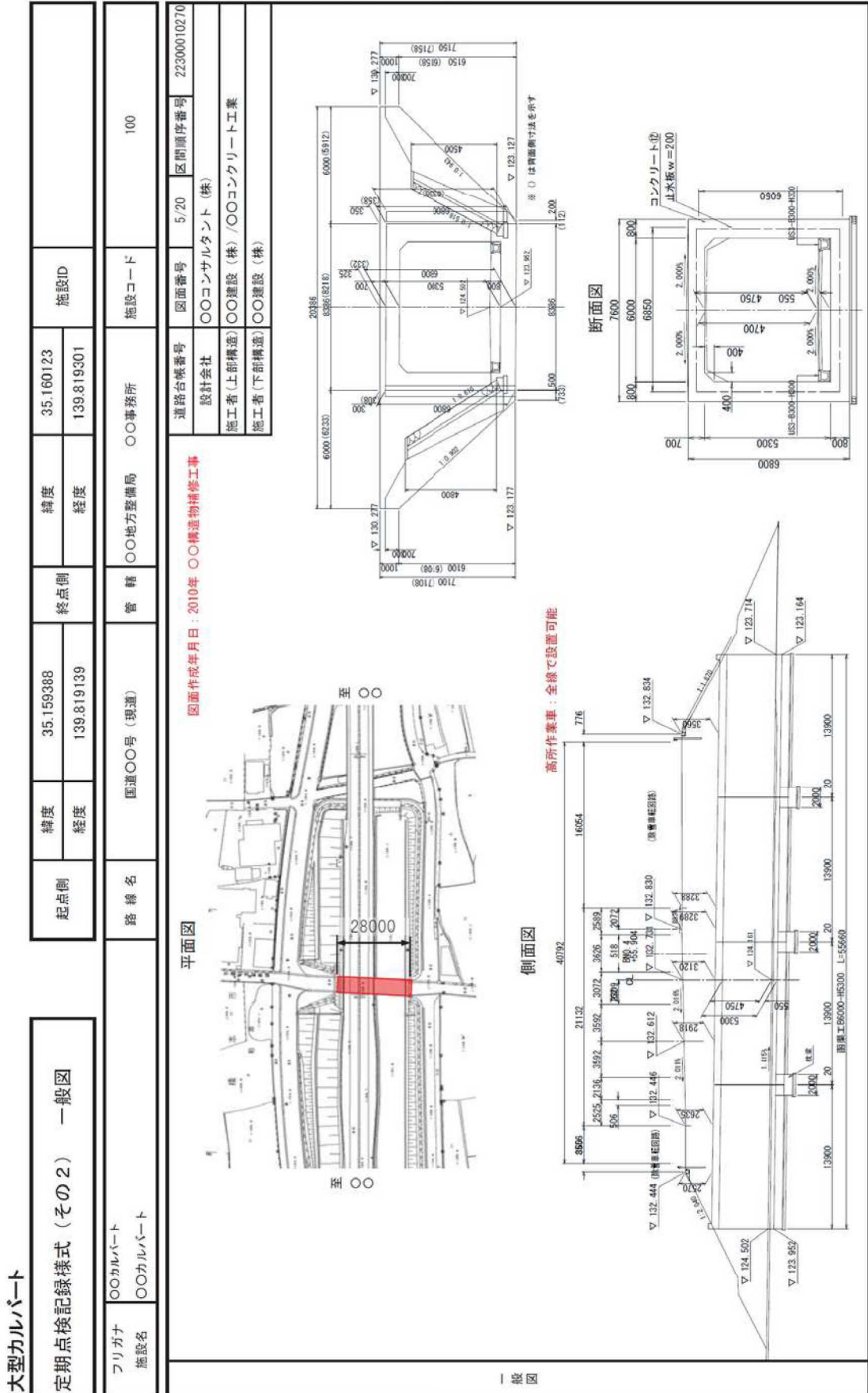
定期点検表記録様式 大型カルバート

1) 定期点検記録様式 (その1) 施設の諸元と総合検査結果

<p>定期点検記録様式(その1) 施設の諸元と総合検査結果</p>		<p>施設ID</p>	
<p>フリカナ</p>	<p>35.159388 緯度</p>	<p>35.160123 緯度</p>	<p>139.819301 経度</p>
<p>施設名</p>	<p>35.159388 緯度</p>	<p>35.160123 緯度</p>	<p>139.819301 経度</p>
<p>所在地</p>	<p>139.819139 経度</p>	<p>139.819139 経度</p>	<p>139.819139 経度</p>
<p>路線名</p>	<p>国道00号00バイパス</p>	<p>00地方整備局</p>	<p>施設コード</p>
<p>距離</p>	<p>自 123.0 km + 45m</p>	<p>00国道事務所</p>	<p>調査更新年月日</p>
<p>距離</p>	<p>至 123.0 km + 73m</p>	<p>00国道出張所</p>	<p>2020/1/20</p>
<p>道路規格</p>	<p>3種 I級 設計速度 80 km/h</p>	<p>2010年</p>	<p>区間番号</p>
<p>調査年</p>	<p>2010年</p>	<p>区間番号</p>	<p>40.000</p>
<p>交通量</p>	<p>年間12時間</p>	<p>車線 /</p>	<p>58</p>
<p>車線数/大型車進入率</p>	<p>車線 /</p>	<p>不明</p>	<p>%</p>
<p>荷重制限</p>	<p>有</p>	<p>有</p>	<p>有</p>
<p>緊急輸送道路の指定</p>	<p>有</p>	<p>有</p>	<p>有</p>
<p>優先確保ルートの指定</p>	<p>有</p>	<p>有</p>	<p>有</p>
<p>事前通行規制・迂回路</p>	<p>無</p>	<p>無</p>	<p>無</p>
<p>融雪剤等散布区間</p>	<p>無</p>	<p>無</p>	<p>無</p>
<p>施設種別</p>	<p>横断ボックスカルバート</p>	<p>横断ボックスカルバート</p>	<p>道路(県道00線)</p>
<p>内空施設(道路、水路、その他)</p>	<p>道路(県道00線)</p>	<p>道路(県道00線)</p>	<p>道路(県道00線)</p>
<p>内空利用</p>	<p>一般に供用</p>	<p>一般に供用</p>	<p>一般に供用</p>
<p>延長/ブロック数</p>	<p>28 m / 2</p>	<p>28 m / 2</p>	<p>28 m / 2</p>
<p>内空幅</p>	<p>6.00 m / 5.30 m</p>	<p>6.00 m / 5.30 m</p>	<p>6.00 m / 5.30 m</p>
<p>内空が道路</p>	<p>有</p>	<p>有</p>	<p>有</p>
<p>内空が水路</p>	<p>有</p>	<p>有</p>	<p>有</p>
<p>構造形式</p>	<p>鉄筋コンクリート</p>	<p>鉄筋コンクリート</p>	<p>鉄筋コンクリート</p>
<p>使用材料</p>	<p>最大 3.29 m 最小 2.75 m</p>	<p>最大 3.29 m 最小 2.75 m</p>	<p>最大 3.29 m 最小 2.75 m</p>
<p>土かぶり(最大/最小)</p>	<p>直接基礎</p>	<p>直接基礎</p>	<p>直接基礎</p>
<p>基礎形式</p>	<p>有(蛍光灯)</p>	<p>有(蛍光灯)</p>	<p>有(蛍光灯)</p>
<p>照明(種類/灯数)</p>	<p>0.5</p>	<p>0.5</p>	<p>0.5</p>
<p>沿岸からの距離</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>
<p>現場写真 全景</p>		<p>現場写真 近景</p>	
<p>判定区分 (総合評価)</p>	<p>III</p>	<p>所見</p>	<p>(適切に記載する)</p>
<p>作成者</p>	<p>0000会社</p>	<p>0000</p>	<p>0000</p>

定期点検表記録様式 大型カルバート




2) 定期点検記録様式 (その2) 一般図



〇一般図には近接目視による診断ができていない箇所や近接目視によらない方法を講じた箇所を明記すること。

定期点検表記録様式 ロックシェッド・スノーシェッド・スノーシェルター

1) 定期点検記録様式 (その1) 施設の諸元と総合検査結果

<p>ロックシェッド・スノーシェッド・スノーシェルター</p> <p>定期点検記録様式(その1) 施設の諸元と総合検査結果</p>		<p>起點側</p> <p>緯度 35.159388 経度 139.819139</p> <p>終點側</p> <p>緯度 35.160123 経度 139.819301</p> <p>施設ID</p>	
<p>フリガナ</p> <p>施設名 ○○ロックシェッド</p> <p>所在地 ○○県○○市○○</p>		<p>管轄</p> <p>○○地方整備局</p> <p>施設コード</p> <p>10</p>	
<p>路線名</p> <p>国道○○号(現道)</p> <p>距離</p> <p>自 23.7 km + 00m</p> <p>至 23.7 km + 96m</p>		<p>調書更新年月日</p> <p>2020/1/20</p>	
<p>道路規格</p> <p>3 種 1 級 設計速度 80 km/h</p> <p>調査年 2012 年 区間番号 不明</p> <p>交通量 18,000</p> <p>緊急輸送道路の指定 有(一次)</p> <p>優先権ルート 有</p> <p>事前通行規制・迂回路 有</p> <p>融雪剤等散布区間 無</p>		<p>災害履歴の有無</p> <p>無</p> <p>最新補修履歴</p> <p>2007年10月</p> <p>点検履歴</p> <p>・2010年○月○日 総合的な評価</p>	
<p>延長/ブロック数</p> <p>96.00 m 8 ブロック</p> <p>内空 全幅員/車道幅員</p> <p>8.50 m 7.00 m</p> <p>断面 有効高/建築限界</p> <p>4.70 m 4.90 m</p> <p>上部 使用材料/形式</p> <p>PC製 逆L式</p> <p>構造 頂版形式/勾配</p> <p>T形断面PC梁 2</p> <p>下部 山側 躯体/基礎</p> <p>逆T式 直接</p> <p>構造 谷側 躯体/基礎</p> <p>逆T式 海岸擁壁</p> <p>縁石材 種類/厚さ/面積</p> <p>砂 0.9 m²/768 m²</p> <p>飛散防止材 種類/厚さ/面積</p> <p>砂利 0.2 m²/768 m²</p> <p>照明 種類/灯数</p> <p>無 0. カナ近</p> <p>海岸からの距離</p> <p>0.01 km</p>		<p>設計条件</p> <p>最大勾配 2 %</p> <p>横断 1.5 %</p> <p>区間長 500 m</p> <p>2003 年度 2001 年度</p> <p>2003 年度 2001 年度</p> <p>積雪深 0 m</p> <p>積雪重 0 kN/m²</p> <p>鉛直 0 kN/m²</p> <p>鉛直 0 kN/m²</p> <p>地震荷重(水平震度)</p> <p>鉛直 0 kN/m²</p> <p>鉛直 0 kN/m²</p> <p>テプリ荷重</p> <p>不明</p> <p>その他荷重</p> <p>不明</p> <p>設計計算書/竣工図の有無</p> <p>有</p> <p>斜面長/形状/勾配</p> <p>50 m 軟岩 有</p> <p>浮石の状況</p> <p>無</p> <p>斜面地表状況</p> <p>凹凸中〜大、立木あり</p> <p>坑窪地盤の状況</p> <p>一部流出あり</p> <p>鋼部材 防食工法/塗装系</p> <p>塗装 HDZ35</p> <p>防食 塗装面積</p> <p>9.4 m² (全塗装面積)</p> <p>RC-PC部材 コンクリート強度</p> <p>主梁 50 N/mm²</p> <p>柱 50 N/mm²</p> <p>PC部材 鋼材/PC or PRC</p> <p>主梁 PC鋼より線</p> <p>柱 PRC</p>	
<p>共用物件</p> <p>名称: 上下水道 更新年次: 不明</p> <p>管理者: ○○○水道局</p> <p>現地写真 全景(谷側柱などがわかる側面の写真)</p> 		<p>維持管理</p> <p>RC-PC部材</p> <p>鋼材/PC or PRC</p> <p>主梁 PC鋼より線</p> <p>柱 PRC</p> <p>現地写真 近景(頂版・柱のわかる側面の写真)</p> 	
<p>位置図</p>  <p>ブロック番号</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8</p> <p>起點側 終點側</p>		<p>作成者</p> <p>○○○会社</p>	
<p>判定区分 (総合評価)</p> <p>Ⅲ</p> <p>(適切に記載する)</p>		<p>所見</p>	

定期点検表記録様式 ロックシェッド・スノーシェッド・スノーシェルター

2) 定期点検記録様式(その2) 一般図

ロックシェッド・スノーシェッド・スノーシェルター	
定期点検記録様式(その2) 一般図	
フリガナ 施設名	〇〇ロックシェッド 〇〇ロックシェッド
路線名	国道〇〇〇号(現道)
管轄	地方整備局
施設コード	10
起点側 緯度 経度	35.159388 139.819139
終点側 緯度 経度	35.160123 139.819301
施設ID	

道路台帳番号	図面番号	不明	区間順序番号	不明
設計会社	〇〇コンサルtant(株)			
施工者(上部構造)	〇〇建設(株)/〇〇コンクリート工業			
施工者(下部構造)	〇〇建設(株)			

防災点検実施の有無		有り
1	防災点検の実施管理番号 点検ランク 防災点検年度	N***F046 要対策 2017
2	防災点検の実施管理番号 点検ランク	N***G055 カルテ
3	防災点検の実施管理番号 点検ランク	
4	防災点検の実施管理番号 点検ランク	
5	防災点検の実施管理番号 点検ランク	

一般図

断面図

①谷側擁壁基礎部への進入路：100m北に海岸管理通路入り口
侵入には、海岸管理者への連絡が必要
管理者：〇〇県〇〇市〇〇町
②路肩に余裕1台程度なら駐車可

○一般図には近接目視による診断ができていない箇所や近接目視によらない方法を講じた箇所を明記すること。

(別紙2) システム機能要件

機能名称		機能概要			
施設台帳システム	ポータルシステム	ログイン	ログイン機能		
		トップメニュー	システム選択		
		システム管理機能	ユーザ管理	ユーザーの登録、編集、削除できるシステム	
			ユーザ権限決定	ユーザー権限を設定できるシステム	
			操作ログ	操作ログを検索出力できる機能	
	お知らせ機能		お知らせを登録・編集・削除できる機能		
	舗装	検索	路線検索	検索結果一覧を表示する機能 検索結果を出力する機能	
			調査区間検索	検索結果一覧を表示する機能 検索結果を出力する機能	
			複数条件検索※1	複数条件で絞込みをし、結果を表示する機能 複数条件検索の結果を出力する機能	
			舗装管理	諸元情報（舗装現況）	舗装状況等を表・グラフで表示する機能 位置表示する機能 画像表示する機能 諸元表示する機能 舗装現況を出力する機能
		舗装構成		舗装構成を表・グラフで表示する機能 位置表示する機能	
		点検結果管理		点検履歴一覧	調査履歴を一覧表示する機能
				点検ファイリング	調査結果に付随する画像・ファイル等を登録、削除を行う機能
			帳票出力	点検表等の記録帳票を出力する機能	
			地図表示	調査結果を地図表示する機能	
			画像管理	地図に対応した画像を管理する機能	
		一括登録	調査結果等について、一括登録する機能		
		補修管理	補修情報	補修情報の登録、編集、削除を行う機能	
			補修履歴一覧	補修履歴の一覧を表示する機能	
			補修位置表示	補修位置を表示する機能	
			帳票出力	補修履歴調書を出力する機能	
		補修計画登録	補修計画について、登録、編集、削除、一覧表示する機能		
		舗装以外	検索	路線検索	検索結果一覧を表示する機能 検索結果を出力する機能
				複数条件検索※1	複数条件で絞込みをし、結果を表示する機能 複数条件検索の結果を出力する機能
				施設管理※2	諸元情報
			諸元ファイリング		施設の画像・図面番号等を登録、削除を行う機能
	帳票出力		諸元情報の出力を行う機能		
	一括登録		施設情報について、一括登録、編集、削除する機能		
	地図表示・出力		対象施設を地図表示する機能及び出力できる機能		
	点検管理（通常点検・定期点検）		点検履歴一覧	点検履歴について、一覧表示する機能	
			点検ファイリング	点検調書に付随する画像・図面等を登録、削除を行う機能	
			帳票出力	点検調書（県）を出力する機能	
			点検基本情報	点検基本情報を登録、編集、削除する機能	
			点検調書	点検調書を登録、編集、削除する機能	
			一括登録	点検結果の一括登録を行う機能	
			点検計画登録	点検計画について、登録、編集、削除、一覧表示する機能	
	補修管理		補修情報	補修情報を登録、編集、削除する機能	
			補修履歴一覧	補修履歴を一覧表示する機能	
			補修履歴調書	補修履歴調書の登録、編集、削除を行う機能	
			補修ファイリング	補修履歴調書に付随する電子納品保管管理システムとの連携を登録、削除を行う機能	
帳票出力			補修履歴調書を出力する機能		
補修計画登録	補修計画について、登録、編集、削除、一覧表示する機能				
法定点検結果報告支援機能			法定点検の国への報告において、調書作成や報告作業を支援する機能		

※1 フリーワードによる検索も含む

※2 構造等の情報を含む

(別紙3) システム非機能要件

項目	要件
動作環境	システムはクラウド上に構築するwebアプリケーション方式とし、その他の事項については、協議の上確定する。
データベース	使用するデータベースあたっては、リレーショナルデータベースを基本とする。
システム運用	システムの運用にあたっては、リレーショナルデータベース管理システムをプロトコルとし、導入するシステムを操作することとする。
利用者数	利用者は県建設部に所属する職員及び点検等の受注者を想定し、システムは最大50名が同時利用することとし、利用者のID、パスワードは個別に定める。なお、利用者のアクセスログを取得し確認できることとする。
利用者環境	利用者の端末は以下のとおりとする。 パソコン OS:Windows11 ブラウザ:Microsoft Edge、Firefox、Google Chrome タブレット OS:iPadOS18 ブラウザ:Safari
データバックアップ	データの消失を防ぐために定期的なバックアップを実施すること。バックアップの時期(間隔)については、発注者と協議の上設定すること。
サーバ	使用データセンターは、受注者にて用意すること。また、データセンターは日本国内に立地し、物理的なデータの保管場所が日本国内であること。 準拠法が国内法であること。 システムを運用するオペレーションが日本国内で実施されていること。